

京都大学出前授業

学びコーディネーターによる出前授業

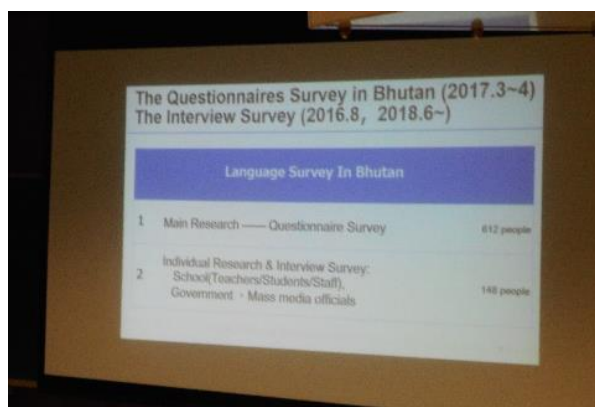
～多言語国家ブータン王国の教育～

京都大学が高大接続・高大連携活動の一環として、全国的に展開している学びコーディネーター事業を利用して、京都大学大学院 人間・環境学研究科 佐藤 美奈子 先生をお迎えして「多言語国家ブータン王国の教育」という題目で講義をしていただきました。約 70 名が参加し、「多言語国家」というものをイメージしながらお話を聞き始めましたが、ブータンの「多言語」は聴講者の想像を絶する状況でした。そのインパクトの大きさもあり、ブータンで起こっている現実の課題である「公用語はどうあるべきか」「公教育のあり方とは」ということについて、全員が真剣に考えさせられました。

今まで直面したこともなく考えたこともない、そして容易には答えの出ない、しかし、現実には起こっている課題を突き付けられ、聴講者の心に大きな波紋を残しつつ、閉講となりました。生徒にとって、世界を知ろうとするきっかけとなる貴重な講義でした。

講義終了後の質問にも長時間にわたり丁寧に答えていただきました。ありがとうございました。

【授業の様子】



【生徒の感想から】

2年)

今日はブータンの言語と教育について学んだ。19もの言語を持つブータンの教育について研究されている先生から、なぜ英語を学ぶのかについての意見を聞くことができたことが、とても自分のこれからの学習への姿勢を変えてくれそうだなと思った。言語は、使う人が社会的にどのような階級に多いかで広まりやすさが変わるそうだ。学識者が多く使っている言語が英語であるがために、国際社会で活躍していくためのツールとして、英語に重きが置かれる。また、文字で表すことができる言語であるということも、英語の重要なポテンシャルなのだとわかった。だからブータンでは、国語であるゾンカ語と英語の両方を学びたいという人が多いのだと深く納得することができた。

しかし、これを多言語国家だけの問題としてはいけないと言う言葉が印象的だった。日本にも日系ブラジル人の子孫や、在日朝鮮人等、様々な国の子供がいる。その人たちにとって、日本語で授業を行うことで社会に出た時の平等を大事にするのか、母国語で授業を行い負担の割合の平等に重きを置くのか、と、身の回りの問題を改めて見直していこうと強く感じた。

2年)

今回の授業で、初等教育から何の言語で教えるのかという論点における最大のポイントが、国王の用いる言語と、用いる人口の一番多い言語が異なるということで、非常に難しい問題だと思いました。国王の使うゾンガ語は、マスメディアで用いられていたり、文字を使っていたりして、国内外の情勢やニュースを知り得たり、授業でノートを取ったりできるため、ブータンにとっての重要な国語だとわかったが、一方で多くの国民の母語はゾンガ語ではないため教育が難しいという点で、ゾンガ語が母語である人々は、母語である人々に比べ不利な状態からのスタートで、負担がとても大きいと感じたし、英語という世界にも通用するツールで教育を受けるにも、現時点で今の子供たちの親が英語をできるかできないかですでに格差が生じているのは、悲しいことだなと感じました。

僕は一刻も早く英語を公用語に取り込むことがブータンの繁栄につながるだろうと思い、英語を初等教育から用いてゾンガ語を日本の古典のように扱って教育を行い、ゾンガ語の以外の19の言語は大学での言語学とか史料として保存することが望ましいと勝手に考えました。ここで大事になることは、国民が国王に対して好意的であるかということだと思います。というのもゾンガ語に対して国民がブータンの人々であることのアイデンティティを持つことが、他の言語を公用語としないために必要な条件だと思うからです。

僕は先生のように本当に興味を持って改めて大学に入って研究しようと思うほどの事がまだないので、今の内にどんどんいろんなことに挑戦し、そのための英語を身につけていきたいです。

1年)

今日のお話を聞いて、多文化・多民族の中での教育の難しさについて、とても考えさせられました。日本はまだまそういう国ではないだけで、むしろたくさんの文化や民族の人がいる方が普通なんだなと思いました。その共通な言語がない中で使われるのはやはり英語です。私は今まで、なんで英語なんだろう？世界で共通で使われるのは、話者が多いスペイン語でも、フランス語でも、中国語でもいいんじゃないだろうか？とっていたけど、やはり英語を話す国の経済力であり影響力の大きさが関係しているのだということを知りました。でも、だからと言ってそれに負けて世界が英語になっていくのもどうかとは思いますが、今の世界で活躍するには英語が必要だし、私も英語が大好きです。

また、教育の面でブータンの人々が求める“Impartiality”とは何なのかということも大切な問題で、その正解はとても難しいということを知りました。私は、全ての人に全く同じものを与えることが平等だとは思いません。

今回のお話は、言語と教育という、私にとってどちらも興味のあるものについてであり、とても考えさせられるものでした。教育の本質に関することで、もっと考え知りたいと思いました。様々な文化をもった人々とディベートしたいテーマでした。